

ターム水溶剤によるキウイフルーツの新梢伸長抑制

雄木の新梢管理の省力化を目指して

- キウイフルーツは新梢が発生しやすく、その管理に多大な労力が必要となる。
- 特に雄木は着果負担がないため、徒長枝が発生し、過繁茂になりやすい。
- そこで、温州みかんの夏秋梢伸長抑制効果のあるターム水溶剤について、「チーフタン」を用いて検討した。



ターム水溶剤による伸長抑制効果

- 5月25日にせん定し、7月11日に芽かきを行い、翌日散布。
- 処理区は新梢の発生が少なく、新梢管理はほとんど不要。
- 冬季のせん定も大幅に省力化できた。

注意点

- 濃度等によっては芽の枯死や葉焼けが発生。
- 翌年の花数や花粉採取量に影響が見られるため、適切な処理濃度、処理時期について検討中である。

表1 9月15日の生育状況

試験区	新梢の発芽率 (%)	新梢伸長量 (cm)
500倍区	0.7 b	3 b
1,000倍区	4.1 b	45 b
2,000倍区	3.6 b	80 b
水散布区	22.2 a	653 a

水散布区は新梢が発生



ターム区は新梢がほぼない

注) Tukeyの多重検定により異符号間に5%水準で有意差あり

表2 翌年の生育状況及び花粉採取量

試験区	新梢の発芽率 (%)	1結果枝あたり花数 (個)		1000花あたり花粉採取量 (g)	
		中心花	側花	中心花	側花
500倍区	39.6 a	6.5 a	6.5 b	13.8	12.7
1,000倍区	43.6 a	6.0 a	7.6 ab	13.8	10.6
2,000倍区	60.9 a	6.6 a	10.3 ab	14.3	11.6
水散布区	64.4 a	6.7 a	10.7 a	16.7	14.7

注) Tukeyの多重検定により異符号間に5%水準で有意差あり

ターム水溶剤は「キウイフルーツ (雄木)、1000~2000倍」で適用拡大を予定しています。